

### 3 結果を受けて

#### (1)各学年、各教科について

「令和5年度 全国学力・学習状況調査 報告書」(文部科学省 国立教育政策研究所)に示された設問ごとの観点に基づいて、本市としての課題等をまとめています。

なお、各観点ごとに以下のように示しています。

- 全国平均正答率を上回っている、または同値の点
- △ 全国平均正答率を下回っている点

#### 〈小学校6年生 国語〉

##### 〔知識及び技能〕

##### 言葉の特徴や使い方に関する事項

- △ 送り仮名に注意して、漢字を文の中で正しく使うこと。〔1三(2)〕
- 文章の種類とその特徴について理解すること。〔1四〕
- 日常よく使われる敬語を理解すること。〔3三〕

##### 情報の扱い方に関する事項

- 原因と結果など情報と情報との関係について理解すること。〔1一〕
- 情報と情報との関係付けの仕方、図などによる語句と語句との関係の表し方を理解し使うこと。〔2三〕

##### 〔思考力、判断力、表現力等〕

##### 話すこと・聞くこと

- 必要なことを質問しながら聞き、話し手が伝えたいことや自分が聞きたいことの中心を捉えること。〔3一(1)、(2)〕
- 目的や意図に応じ、話の内容を捉え、話し手の考えと比較しながら、自分の考えをまとめること。〔3二〕

##### 書くこと

- 図表やグラフなどを用いて、自分の考えが伝わるように書き表し方を工夫すること。〔1二〕

##### 読むこと

- △ 目的を意識して、中心となる語や文を見つけて要約したものを選択すること。〔2一〕
- △ 目的に応じて、文章と図表などを結び付けるなどして必要な情報を見付けること。〔2二〕
- 文章を読んで理解したことに基づいて、自分の考えをまとめること。〔2四〕

[ ]内の記号は、問題番号

##### 〔全体として〕

全体として、全国の平均正答率を上回る設問が多い状況でした。

「知識及び技能」について、概ね全国の平均正答率を上回る結果でしたが、引き続き、確実な習得と一層の習熟が図れるような繰り返しの指導に加え、個に応じた支援を充実させることが大切です。

「話すこと・聞くこと」については、話し手の目的や自分が聞こうとする意図に応じて、話の内容を捉え、話し手の考えと比較しながら、自分の考えをまとめることが重要です。

昨年度は全国と比して選択式問題の正答率が低いことを課題として挙げましたが、今年度改善が見られました。各観点、問題形式における課題を分析し、授業改善に努めることに引き続き取り組みます。

## 〈小学校6年生 算数〉

### 数と計算

- ( )を用いた式や、加法と乗法の混合した式を場面と関連付けて読み取ること。〔3(1)〕
- △ 示された日常生活の場面を解釈し、小数の加法や乗法を用いて、求め方と答えを記述し、その結果から条件に当てはまるかどうかを判断すること。〔3(2)〕
- △ (2位数)÷(1位数)の筆算について、図を基に、各段階の商の意味を考えること。〔3(4)〕

### 図形

- △ 正方形の意味や性質について理解すること。〔2(2)〕
- 正三角形の意味や性質について、操作を通して理解すること。〔2(3)〕
- △ 高さが等しい三角形について、底辺と面積の関係を基に面積の大きさを判断し、その理由を記述すること。〔2(4)〕

### 変化と関係

- 伴って変わる二つの数量の関係が、比例の関係ではないことを説明するために、示された表の中の適切な数の組をえらぶこと。〔1(2)〕
- 伴って変わる二つの数量が比例の関係であることを用いて、知りたい数量の大きさの求め方と答えを記述すること。〔1(3)〕
- △ 百分率で表された割合について理解すること。〔4(1)〕

### データの活用

- △ 「以上」の意味を理解し、示された表から必要な数を読み取ること。〔4(2)〕
- 示された棒グラフと、複数の棒グラフを組み合わせたグラフを読み、見いだした違いを記述すること。〔4(3)〕
- △ 二次元の表から、条件に合う数を読み取ること。〔4(4)〕

[ ]内の記号は、問題番号

### 〔全体として〕

「数と計算」については、引き続き、確実な習得と一層の習熟が図れるような繰り返しの指導に加え、個に応じた最適な支援を充実させる必要があります。問題別では、筆算について、図を基に、各段階の商の意味を考えることに課題が見られました。筆算を具体物や図と関連付けて考察したり、具体物の操作や、図で考えた結果を式に表したりすることで、筆算と式を関連付けて考察できるようにすることが重要です。

「データの活用」では、複数のグラフを比べ、見いだしたことを表現できるようにする指導の充実が必要です。目的に応じて分類整理された複数のグラフを比べ、見いだしたことや、グラフから特徴や傾向を捉えたり、考察したりしたことを、他者に分かりやすく説明、表現できるようにすることも大切です。

「変化と関係」では、特に百分率で表された割合についての設問で課題がありました。日常生活の場面において百分率で表された割合について、具体的な数量の関係に基づいて理解できるようにすることが重要です。

領域として、全国と比して課題が見られたのが「図形」でした。目的の図形をつくるための操作の見通しを立てることや、面積を求めるための必要な要素を正確に選ぶことができるようにする指導の充実が必要です。効果的にICTを活用しながら、学習の中でより多様で柔軟な見方、考え方にふれることができるような学習活動に取り組みます。

〈中学校3年生 国語〉

〔知識及び技能〕

言葉の特徴や使い方に関する事項

- △ 事象や行為、心情を表す語句について理解すること。〔2一〕
- 文脈に即して漢字を正しく書くこと。〔3二〕

情報の扱い方に関する事項

- △ 情報と情報との関係について理解すること。〔1二、3三〕

我が国の言語文化に関する事項

- 歴史的仮名遣いを現代仮名遣いに直して読むこと。〔4一〕

〔思考力、判断力、表現力等〕

話すこと・聞くこと

- △ 目的や場面に応じて質問する内容を検討すること。〔1一〕
- 聞き取ったことを基に、目的に沿って自分の考えをまとめること。〔1四〕
- 話の内容を捉え、知りたい情報に合わせて効果的に質問すること。〔1三〕

書くこと

- 読み手の立場に立って、叙述の仕方などを確かめて文章を整えること。〔3一〕
- △ 自分の考えが伝わる文章になるように、根拠を明確にして書くこと。〔3四〕

読むこと

- 観点を明確にして文章を比較し、表現の効果について考えること。〔2二〕
- 文章の中心的な部分と付加的な部分について叙述を基に捉え、要旨を把握すること。〔2三〕
- 文章を読んで理解したことなどを知識や経験と結び付けて、自分の考えを広げたり深めたりすること。〔2四〕
- 文章の構成や展開、表現の効果について、根拠を明確にして考えること。〔4三〕

[ ]内の記号は、問題番号

〔全体として〕

全体として、全国の平均正答率を上回る設問が多い状況でした。

「知識及び技能」については、引き続き、確実な習得と一層の習熟が図れるような繰り返しの指導に加え、個に応じた最適な支援を充実させる必要があります。また、漢字の書きについては、学習指導要領の学年別漢字配当表に示されている1,026字について、中学校修了までに文や文章の中で使い慣れる必要があります。

「書くこと」において、自分の考えが伝わる文章を書くためには、伝えたい自分の考えと、考えを支える根拠を文章の中に記述する必要があります。指導においては、自分の考えが確かな事実や事柄に基づいたものであるかを確認した上で、根拠について検討し、考えと事例等との関係を明確にして記述できるようにしていくことが大切です。

「読むこと」については、4問全てで全国の平均正答率を上回る結果でした。より力を付けていくためには、文章を読んで理解したことなどを知識や経験と結び付け、自分の考えを広げたり深めたりする指導の質を高めていく必要があります。また、読書の意義や効用についても理解が深まるように指導することも重要です。

## 〈中学校3年生 数学〉

### 数と計算

- △ 数と整式の乗法の計算をすること。〔2〕
- 問題場面における考察の対象を明確に捉えること。〔6(1)〕
- 自然数の意味を理解すること。〔1〕
- △ 目的に応じて式を変形したり、その意味を読み取ったりして、事柄が成り立つ理由を説明すること。〔6(2)〕
- 結論が成り立つための前提を、家庭や結果を振り返って考え、成り立つことを見だし、説明すること。〔6(3)〕

### 図形

- △ 空間における平面が同一直線上にない3点で決定されることを理解すること。〔3〕
- ある事柄が成り立つことを構想に基づいて証明すること。〔9(1)〕
- △ 条件を変えた場合に事柄が成り立たなくなった理由を、証明を振り返って読み取ること。〔9(2)〕

### 関数

- 反比例の意味を理解すること。〔4〕
- 与えられた表やグラフから、必要な情報を適切に読み取ること。〔8(1)〕
- △ 事象を理想化・単純化することで表された直線のグラフを、事象に即して解釈すること。〔8(2)〕
- 事象を数学的に解釈し、問題解決の方法を数学的に説明すること。〔8(3)〕

### データの活用

- △ 累積度数の意味を理解すること。〔5〕
- 四分位範囲の意味を理解すること。〔7(1)〕
- 複数の集団のデータの分布の傾向を比較して捉え、判断の理由を数学的な表現を用いて説明すること。〔7(2)〕

[ ]内の記号は、問題番号

### 〔全体として〕

全体として、全国の平均正答率を上回る設問が多い状況でした。

「数と式」では、多くの設問で全国の平均正答率を上回るまたは同等の結果の中、数と整式の乗法の計算では下回る結果でした。基礎的基本的な内容の確実な習得と、一層の習熟が図れるような繰り返しの指導が必要です。

「図形」については、身の回りにある事象を図形として捉え考察したり、証明を振り返り、図形の性質を論理的に考察したりする活動の充実が必要です。例えば、ある事柄の条件を変えた場合について、証明を振り返り、前提や根拠を整理するなどの活動をとおして、図形の性質を論理的に考察し、表現するといった学習内容が考えられます。

「関数」、「データの活用」については、設問によっては全国の平均正答率を3ポイント以上上回る状況もありました。引き続き、「関数」においては、表、式、グラフなどを用いて、それらをどう用いたかについて数学的に説明する活動などの充実を、「データの活用」においては、データの分布の傾向を読み取って判断し、その理由を数学的な表現を用いて的確に説明できる力などの育成を図っていきます。

〈中学校3年生 英語〉

聞くこと

- △ 情報を正確に聞き取ること。(話し手の交換がなく話された場合) [1](1)]
- △ 目的に応じて英語を聞き、必要な情報を聞き取ること。 [2]
- 目的に応じて英語を聞き、自分の置かれた状況などから判断して、必要な情報を聞き取ること。 [3]
- 社会的な話題について、短い説明の要点を捉えること。 [4]

読むこと

- △ 事実と考えを区別して読むこと。 [5](2)]
- △ 自分の置かれた状況などから判断して、必要な情報を読み取ること。 [6]
- △ 日常的な話題について、文と文との関係を正確に読み取ること。 [7](1)]
- △ 日常的な話題について、短い文章の概要を捉えること。 [7](2)]
- 社会的な話題について、短い文章の要点を捉えること。 [8](1)]

書くこと

- △ 社会的な話題に関して読んだことについて、考えとその理由を書くこと。 [8](2)]
- 文法事項や言語の働きなどを理解して正確に書くこと。 [9](1)①②(2)]
- まとまりのある文章を書くこと。 [10]

話すこと「やり取り」 ※「話すこと」については参考値としての取扱

- △△ 即興で伝え合うこと。 [話すこと1](1)(2)(3)]
- 日常的な話題に関して聞いたことについて、考えとその理由を述べ合うこと。 [話すこと1](4)]

話すこと「発表」 ※「話すこと」については参考値としての取扱

- 社会的な話題に関して聞いたことについて、考えとその理由を話すこと。 [話すこと2]

[ ]内の記号は、問題番号

〔全体として〕

全設問中(「話すこと」を除く)のおよそ5割(17問中9問)が平均正答率50%を下回っており、本市としても同様の状況でした。領域、評価の観点、問題形式の各区分においても、全国と本市に大きな平均正答率の差はありませんでした。

指導改善のポイントとしては、例えば「聞くこと」では、自分の置かれた状況などから判断して、必要な情報を聞き取る指導を充実させることが重要です。指導に当たっては、自分の置かれている状況を把握できているかどうかと、何を聞き取ればよいかを理解しているかどうかを確認することが大切であり、その上で、それらに関連する語句や表現に着目して、必要な情報を聞き取ることができるようにすることが考えられます。

「読むこと」については、語と語の関連や代名詞、接続表現などを手掛かりにしながら、段落内の情報の関係を正確に把握する力や、各段落の主な内容を関係付けていくことにより、文章全体の大まかな内容を捉える力の育成が求められます。

「話すこと[やり取り][発表]」については、実施期日、人数が他領域と異なるため、参考値として取り扱うこととしています。本市の平均正答率は13ポイントで、全国の平均正答率とほぼ同等の状況でした。指導に当たっては、日頃の授業から聞いたり読んだりして得た知識や情報をメモにすることや、図式化したことを基に、生徒が自分の考えを述べる機会を設定することが大切です。

## (2)児童生徒質問紙調査結果より〈小・中学校共通〉

- 米子市教育振興基本計画に関連する質問事項については、多くの点で全国の平均値を上回りました。
- 小・中学校共通して、多くの児童生徒が人の役に立つ人間になりたいと考えています。
- 小・中学校共通して、地域の行事に参加している児童生徒が多く、また、地域や社会をよくするために何かしてみたいと考えている児童生徒も多いことがわかりました。
- 家庭での学習習慣や生活習慣の確立に引き続き努める必要があります。スマートフォンやコンピューターの使い方について、家庭での約束を守ることや、使用時間について見直すことは、引き続きの課題ではありますが、こういった端末を効果的に学習に取り入れることも必要であるため、家庭との連携を図りながら、有効に活用していくことが大切です。
- PC・タブレット端末などの ICT 機器については、昨年度同様小・中各学校で使用頻度に差があることがわかりました。全体として中学校では全国の平均値を大きく上回っていますが、小学校は下回っています。さらにレベルアップを図り、個に応じた学びを実現するための効果的な活用が必要です。
- 小・中学校が児童生徒の学力や生活習慣における課題の傾向を明らかにし、9年間の内容を系統化し、一貫した指導を行っていけるよう、小中一貫教育を推進していきます。

## (3)家庭では

児童生徒の学力の定着を図るために、以下のような取組をお願いします。

### ○基本的な生活習慣を身に付けさせましょう。

→あいさつや食事、睡眠、朝食の摂取など規則正しい生活リズムを身に付けると、児童生徒の本来の力が発揮されやすくなります。

### ○家庭で学習する習慣を定着させましょう。

→各校で配布されている家庭学習の手引き等を参考に、学習する時間を見直してみましょう。継続して、計画的に学習することで、学力を定着させることができます。

### ○新聞を含め、家庭での読書活動をさらに勧めましょう。

→学校の図書館等に、児童生徒を対象とした新聞などもあります。特に新聞を読むと世の中の動きがわかり、社会的なものの見方や考え方が育まれるとともに、語彙力や表現力が身に付きます。

### ○日常生活の中で社会のルールやマナーを身に付けさせましょう。

→思いやりの心や社会性などの豊かな心を育むことができます。

### ○地域の行事やボランティア活動に積極的に参加させたり、郷土の自然や文化にふれる体験をさせたりしましょう。

米子市(学校組合)教育委員会としては、調査結果と他の調査結果を関連させて考察した上で、今後も主体的・対話的で深い学びと個に応じた学びの実現にむけて取り組んでいきます。また、学習習慣や生活習慣の確立が学力の定着に極めて重要ですので、今後さらに学校と家庭とが連携できるような取組を進めていきたいと考えています。